

令和5年度 浜松市立佐久間中学校 学校評価報告書

1 自己評価結果、考察及び改善方策

別紙のとおり

2 学校関係者評価

2月16日（金）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・「生徒は、自分の将来について考えたり、なりたい姿を思い描いたりすることがあった」という評価項目については、生徒自身・保護者・教員とも肯定的な回答の割合が他と比べて低かった。生徒が自分の将来のことをちゃんと考えることができ、自分の夢と現実のギャップが出てきたとしても、希望を捨てずたくましく前進できるような指導・支援をお願いしたい。
- ・「授業で学んだことをその教科の中だけで終わらずに、他の教科や、他の場面（日常生活のあらゆる場面を含む）で活用し、知識をつなげようと努めた」等、教員が肯定的な回答をした割合が低い質問が気になる。この数字を受けて教員でも検討・協議し、改善策を見いだしてほしい。
- ・いじめについては、年間通して認知件数がゼロということで、普段から教職員が細やかに指導・対応をしていることが伺える。その点については継続してほしい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・生徒が自分の将来を見通し、自己実現に向けて成長していくためには、自分らしさを自覚してそれを活かし、社会に出たときに自分の役割を果たしつつ新たな価値を創造できる存在へと成長できる力を身につける必要がある。学校全体で今年度からキャリア教育への取組を見直し、充実を図ってきたが、次年度についても、一層その点に力を入れていく。
- ・総合的な学習の時間の探究活動を中心に、生徒は様々な学習活動で、無自覚ではあるが各教科で身につけた力を横断的に活用している。大切なのはそれを各自が意図的に活用し、有効であったと自覚することでさらに各教科での学習活動で自己調整力を発揮し、より自律的な学びが展開され、横断的に発揮される力を身につけることである。次年度は生徒の学習活動について、そういった点の見取りと価値づけに一層傾注していく。
- ・いじめについて、認知がなかったということを過信せず、引き続き生徒の様子を細やかに見届け、情報を共有することや、定期的なアンケートを実施し、確実な実態把握に努めることを行っていき、学校が生徒にとって安心・安全な場であることを維持していきたい。

佐久間中学校 学校評価（自己評価）

1 「自ら働きかける気概をもち、実践できる生徒」……こころざし	生徒	保護者	教員
① 体験活動や行事等の目的について考え、理解して活動することができた。	94.8	90.9	100
② 学校生活の様々な場面(生徒会活動・委員会活動・学級での活動・授業・部活動・行事など)において、自分の考えや意見をもち、それを生かそうとすることができた。	100	90.9	90
③ 自分の将来について考えたり、なりたい姿を思い描いたりすることがあった。	66.6	72.8	60

2 「多様な意見を取り入れ、多様な見方ができる生徒」……共生	生徒	保護者	教員
① 自分の思いや意見を表現したり、他者の考えに触れたりして、いろいろな見方や考え方があることを理解できた。	94.7	100	80
② 講演会や体験活動、行事等を通して、自分の見方を広げたり、考えを深めたりすることができた。	88.9	100	100
③ 講演会や体験活動、行事等を通して、「自分の生き方」や「生きがい」、「夢」や「やりたいこと」について考えたり、「自分」を見つめたりすることができた。	77.8	63.6	90

3 「未知の状況にも対応できる思考力を身に付ける自律的な学びができる生徒」……学び	生徒	保護者	教員
① 「Chrome book」を、課題解決のための学習ツールとして利用したり、筆記用具のように自由に使ったりして、学習の中で積極的に活用することができた。	89.4	81.8	90
② 自分の学習を振り返り、必要に応じて学習の仕方に調整や改善を加えようとした。	72.2	81.8	80
③ 授業で学んだことをその教科の中だけで終わらせずに、他の教科や、他の場面(日常生活のあらゆる場面を含む)で活用し、知識をつなげようと努めた。	66.6	27.3	50

4 「地域の課題に働きかけ、地域に貢献できる生徒」……郷土	生徒	保護者	教員
① 地域の行事やボランティア活動に進んで参加した。	57.9	72.8	100
② 地域行事への参加や、地域の方々とかかわる活動を通して、「佐久間」について知見を広げることができた。	94.7	90.9	100
③ 地域の一員として、佐久間のために何かできることはないか考えて、ST探究活動などを進めることができた。	100	100	100

評価については5段階（1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない）で行った。上記の数字は1と2をあわせた肯定的にとらえている意見のパーセンテージを示している。

1…こころざし
 ・体験活動の意味を理解して活動し、普段の学校生活でも自分の意見をもち、前向きに活動できる生徒がほとんどであった。ただ、少し先のことや将来のことは、まだ考えられないという生徒が若干いる。

2…共生
 ・多様な意見や考え方があことは、よく理解できていて、お互いが思いやりをもって生活することができる。ただ、意見の相違があったときに対話の中ですり合わせをして、よりよい考えを導き出すということは苦手である。

3…学び
 ・様々な場面でICT（chromebook）をツールとして活用することができる。また、授業では個別最適な学びを行っており、自分の課題を見つけ、それを次に生かすにはどうすればよいか考えられる生徒が多い。ただ、考えることはできてもそれをどう修正したり、調整したりすればよいか、分からない生徒も多い。また、学びを日常生活に結びつけることは相当、難易度が高い。

4…郷土
 ・地域行事への参加は大変前向きである。
 ・総合的な学習の時間では全校生徒が『地域貢献』をテーマに、探究活動を行い、地域を活性化するにはどうしたら良いかを考え、発信することができた。